

平成 29 年度

事業所名 : グループホーム 四季の郷

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392500062		
法人名	社会福祉法人ふるさと福祉会		
事業所名	グループホーム四季の郷		
所在地	岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根北荒巻21番地19		
自己評価作成日	平成 29年 9月 10日	評価結果市町村受理日	平成30年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&ji_gyosyoCd=0392500062-00&PrEfCd=03&VerSiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 29年 9月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・職員全員でチームウエイを掲げ、利用者のニーズに合わせたサービスの提供、選択の意思決定、信頼関係を築く等、毎月評価・改善し業務に取り組んでいます。
 ・日常生活の中で職員と利用者が会話をし笑い声が聞かれたり、和気あいあいと食後の片づけ等を行い、活気に溢れ楽しく過ごしています。又、散歩等利用者の希望を把握し、個別対応を行っています。
 ・法人のデイサービスセンターと連携し、歌謡、民謡ショーや地元中学校吹奏楽部の演奏を手拍子をしたり、歌を口ずさみながら、楽しんで交流を行っています。
 ・JA女性部による窓拭き、地元高校野球部によるボランティアなど継続した交流を行っています。

職員で作成した理念のもとで職員目標を設定し、毎月サービス・ケア等の取り組み状況報告を受け、PDCAの考え方を基本にさらなる個別ケアの実践に向け、不断に取り組んでいる。センター方式を採用し、利用者本位のサービス提供・ケアに取り組んでいる。日頃から、法人のデイサービス事業所利用者をはじめ、地元の高校生(雪かき)や地域の皆さん(JA女性部の清掃や草取り)などの交流を重ね深めている。地域の各種会合に参加しながら、認知症に関する知識や認知症ケアについての講話などを行ない、地域との敷居を低くして、事業所・職員の信頼性に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に「私たちの理念」を掲示している。毎月の職員会議で唱和し共有している。	開設当初の理念を全職員で再確認するとともに、理念の下に職員目標を設定し、毎月、評価、確認、共有をするほか、サービスやケアで困ったことなどについて、理念に照らし合わせながら、皆で方向性や目線を合わせ、実践に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎年地元高校の野球部部員、父兄が雪かきボランティアで来所している。雪が少ない時は窓拭きをして頂いている。又、地域の方が畑の手入れや、歌や踊りを披露している。利用者の楽しみや、励みになっている。	地域の方々とは、散歩でお会いし家庭菜園の手伝いに来所している。利用者は隣接のディサービスに毎年来訪する保育園児の遊戯や手遊びが楽しみの一つである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の集まりに参加し、認知症予防につながる体操や脳トレ等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や施設の状況報告や町の担当者や地域の方々との意見交換を行っている。畑で採れた野菜を使った収穫祭では、共に収穫の喜びを味わった。又、生活の様子について意見を頂きサービスの向上に努めている。	同法人の事業所と合同開催している。委員には、事業所・利用者の理解と、食事会や避難訓練にも参加いただき、勉強会も行なっている。地域協力を含めた災害対などについても意見が出され、有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員が月に1度来所し、利用者と交流している。事業所の実情や取り組みを伝えたり、相談をしている。	運営推進委員会で定期的に会い、普段は電話等で連絡を取り合い助言を得ている。生保関係職員の随時の訪問、地域包括支援センターとの待機者等の情報交換なども円滑に行なわれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について社内研修会を実施し、職員全員で理解し取り組んでいる。玄関に鍵をかけず、職員が鈴の音で気が付ける様に工夫している。	内外の研修を受講し職員間で共有し、身体拘束のないケアを実践している。とりわけ、事業所で拘束につながりやすい言葉による拘束を防ぐため、日頃から職員相互に「やさしく・ゆっくり・小声で」と声を掛けあってケアに当たっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について社内研修会を実施し、職員の意識向上に努めている。日常の言動に気を付けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について社内研修会を実施し制度の理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族と入居後の生活について話し合い、説明を行い納得の上で契約締結となっている。不安軽減のため話しやすい雰囲気作りに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情窓口及び方法について説明を行っている。日常の会話や面会時に利用者家族からの要望を聞くことができる雰囲気作りに努めている。要望はその都度対応している。	面会等で来訪された際に意見等を伺うように努めている。外出機会や食事量についての意見があり、対応を検討している。毎月のお手紙を通じて、より意見が出しやすいような環境づくりを進めたいとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や申し送り時に、職員が意見提案等の発言できる機会を設けている。会議録と共に職員の提案や意見等、随時報告し反映されている。	いつでも気がついた時点で、互いに意見等が出しやすい職場環境が出来ている。これまで「所内への手すりの設置」「眼鏡の事務所保管」など多くの意見が出され、実現されている。今後も意見等の反映に努めていきたいとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持ち、責任ある仕事ができるように努めている。法人として資格取得に向け助成制度が整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回顧客満足度向上、接遇向上研修会を行っている。職員の意識、技術向上のため年間研修計画を作成し実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の法人へ訪問し研修の機会を設けたり、他のグループホームの職員が来所し業務内容について確認する等、相互に刺激となりサービスの質の向上につながっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅や施設訪問し家族、本人、施設職員からの情報により状況を把握し早期に信頼関係を築けるように努めている。又、要望、訴え等を受け入れ本人の安心感を確保出来る様になっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族の心配、要望を受け止め、より良い関係を作れるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを十分に受け止め介護計画に活かしている。入居申し込み時に情報が少ない方については、ケアマネジャーより情報を得てサービスにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活で利用者の得意分野や好みを把握し職員と一緒に掃除や洗濯物干し洗濯物たたみ、茶わん拭き畑の草取り収穫を行っている。又、自ら力を発揮し協力して生活する場となるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族へのおたよりで、利用者の生活の状況を伝えると共に、面会時には最近の様子を伝えている。又、ゆっくり過ごして頂けるように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の知人がホームを訪ねてくることを心待ちにしている。長く関係が続くように日常の様子を伝える等支援に努めている。又、家族や親戚に年賀状や暑中見舞いを書けるだけ自筆で書き、生活の様子を伝えている。	馴染みの関係が薄くなる中、姉妹や知人等、頻りに訪問してくれる方や訪問理容師が馴染みとなってきている。今後も、職員の気づきや発見を記録し共有しながら、馴染みの関係の継続を支援したいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、お互いが穏やかに対等に接し合えるよう職員が間に入り、笑顔で会話をしながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院となった際は、今までの生活に近づける様に医療機関に情報提供して連絡を密にしている。病院から他施設に入所した時も同様に支援内容等情報提供して本人家族の相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を基に職員間で情報交換して利用者の希望や意向を把握している。意志表示が難しい利用者の表情や様子から意志を推し測っている。利用者担当の職員を決め、親密な支援の提供に努めている。	起床や食事、排泄、入浴など、基本的なことは声掛けするものの、あくまで利用者一人ひとりの暮らし方の尊重を第一としている。入浴時など、気分の良い時に声掛けをして希望を聴くなど、本人本位に寄り添った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の実態調査、担当ケアマネジャー、家族本人から可能な限り情報を得られるようにしている。会話からの情報も大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、ケース記録、申し送りや職員会議で、情報を共有している。利用者の一人ひとりの出来る能力を把握して役割を持って頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族からの情報、個別ケース記録からの情報を共有して職員会議で意見を出し合って介護計画を作成している。本人や家族の思い、要望を計画の中に取り入れている。	担当制をとって、利用者の思いや意向の把握に努め、モニタリングやケアプランの見直しに活かしている。理念との連動も視野に、職員との話し合いを重ね、実践的で職員全員が共有出来るプランとなるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実践したことなどの気づきをケース記録や業務日誌に記入し、申し送りなどで情報を共有している。職員会議で気づきや工夫等支援を見直し、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散歩や畑のなど、その時々希望に対応している。家族と連絡を取りたいと希望される時は、電話を取り次いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	畑作業、窓拭き掃除など地域の方に協力して頂いている。町の図書館より定期的な配本サービスを受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が訪問診療を受けている。主治医には利用者の状態の変化を報告している。体調悪化時は主治医より指示を頂いている。緊急時や家族が通院困難時には職員が対応している。	希望するかかりつけ医となっており、定期受診は訪問診療としている。緊急時や検査に際しては、家族の同行を基本としているが、職員の臨機応変の対応もある。普段は、兼務する隣接の特養の看護師の協力によって確保されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調悪化時は隣接事業所の看護師に報告連絡相談をして、健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の情報を医療機関に提供している。入院中には病院を訪問し、経過の情報を得る等連携を図り支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期にむけての指針を作成し、職員間で共有している。又、入居時に説明し同意を得ている。主治医家族の協力のもとに、十分に打ち合わせを行い支援に取り組むこととしている。	重度化や終末期については、かかりつけ医と連携し可能な限り対応している。入居時に看取り指針に沿って家族に説明し同意を得ているが、これまで経験はない。今後は職員の研修等を行い対応時に備えたいとしている。	看取り等、終末期に対応する研修を行ないながら、利用者家族、職員の安心の確保に繋がることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置しており、社内研修で救急救命、AED使用の講習を行い、急変時に備えている。職員に応急手当普及員がいる。マニュアルを作成し、急変や事故発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備え、発電機を使用した停電訓練、運営推進委員会で避難場所と協力の確認を行った。消防署の協力を得て年2回、夜間、昼間を想定した火災避難訓練を実施している。	訓練は、運営推進委員会委員の協力(避難誘導、見守り)を得ながら、法人事業所と一緒にこなしている。職員も、普段から消火訓練やAED講習を受講し、いざというときに備えている。数日程度の備蓄を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の性格や生活歴等を尊重し、目線に合わせて言葉かけをしている。プライバシー保護の研修会に参加し毎日のケアに努めている。	利用者一人ひとりには人生の先輩であることを肝に銘じ、敬意を払いながら支援している。普段の挨拶やトイレ等への誘導に際しても、「声がけはさん付け、近くで優しく」を基本に利用者寄り添っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や散歩、レクリエーション等体調やその日の気分に合わせて自己決定をしている。積極的に掃除や洗濯物たたみ、洗濯物干し、食後の後片付けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	性格や生活歴をもとに一人ひとりのペースに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望する方には理容ボランティアに散髪、顔そりをしてもらっている。自分で身だしなみを整えられるように、ブラシを手渡したり、髭剃りの声掛けを行い支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫した作物や、旬のものを取り入れた献立を利用者と一緒に決めている。食後の後片付けは利用者の能力に応じて下膳、食器拭き等を一緒に行っている。	献立は、希望を聞きながら必要なものを買求め、旬の食材や家庭菜園の収穫物も加え、食卓の話題にしながら楽しく食事している。利用者は皮むきなどの下拵え、下膳、テーブル拭きなどを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は毎回記録している。食事量が少ない方には、好みのものに変えたり、飲み物が苦手な方には負担にならない量をこまめに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛け、誘導、介助等利用者のレベルに合わせて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のタイミングに気を配りトイレ誘導を行っている。ADL低下を防げるよう声掛けを工夫し、トイレで排泄できるよう支援している。	職員の小まめな寄り添いを基本に、機能を維持しながら、夜間を含めたトイレでの排泄に取り組んでいる。排泄の自立は生活の自立として、利用者個々の小まめなチェックを共有しながらトイレ排泄を支援したいとしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防につながる食事メニューを提供している。散歩や体操を行い運動する機会を設けている。排便確認を行い、必要に応じて下剤を服用し、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望を取り入れ、入浴を実施している。体調に配慮しながら清潔保持に努めている。入浴が困難な際には、清拭を行っている。	利用者の希望を聞きながら、週3回を目安に、毎日の入浴希望にも、臨機応変に対応している。柚子湯・菖蒲湯なども設けながら、決して無理強いせず、その気になるまでのんびり対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具、室内温度、環境に気を配り安心して眠れるよう声掛け、巡回排泄の支援を行っている。自己のペースで過ごされたい方は居室で休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルに綴り、常に確認できるようにしている。症状に変化が表われた際は経過を主治医に報告し指示を頂いている。薬はホームで管理し、誤薬の無いように職員間で再確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者に応じて可能な限り掃除洗濯等の生活活動を行っている。希望に応じて散歩や畑作業を取り入れ潤いのある生活につなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季に応じた行事を取り入れ外出先で季節の風景を楽しんでいる。家族の協力を得て外食を楽しまれている方もいる。	利用者の体調や気分、希望を聞きながら外出を支援している。散歩や買い物、隣接事業所との行事参加、家庭菜園の種まきや収穫などは、利用者の気分転換にもなっている。家族の協力を得ての外食は、これからも続けたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	食材の買い物と一緒に出掛け好きな物を選んで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	直筆で暑中見舞いや年賀状を家族に出している。利用者の状態により代筆にて支援している。家族からの電話を取り次いだり、電話をかける等支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下に季節を感じて頂けるような花や飾り、利用者の作品を飾っている。冬には、和室にコタツを用意し季節を感じ、家庭的に過ごせるようにしている。	天窓などから、明るい光が差し込み、一人掛けや二人掛けのテーブルも利用者が居心地良く、過ごしやすいよう配置されている。壁には、利用者手づくりの干支の切り貼り細工が飾られている。毎日の整理整頓、清掃が徹底されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間であるホール内にて、自由に席を移動され会話を楽しまれている。又、ソファに座り落ち着いた時間を過ごされている。和室では、昼寝をしたり、会話をしたりと思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望に応じて使い馴染んだ布団や枕テレビ等を持ち込んで頂いている。居心地良く安心して過ごして頂けるよう枕元には趣味の作品写真等を飾っている。	着替えなどは備え付けのクローゼットに整理され、壁やベッドサイドにはカレンダーや家族などの写真などが、思い思いに飾られている。位牌や遺影を持ち込んでいる方もいる。入り口には、異なる花の額が掲げられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行や歩行器、車椅子の使用時に安全に行えるように室内は全てバリアフリーになっている。又、手すりを設置している。移動時の安全確保の為廊下には物を置かない様配慮している。		